

# 「切実な声 聞く耳ない」

## 継続求め 9630筆請願署名

### 市のぜん息患者医療費助成 廃止方針



命を失った患者の家族が市役所前で請願署名活動をする様子

川崎市独自の「成人ぜん息患者医療費助成制度」と「小児ぜん息患者医療費支給事業」を来年度三月末に廃止する市の方針を巡り、パブリックコメント（意見公募）の始末を反対派が占めたにもかかわらず市議会に廃止案が提出された十三日、患者らでつくる団体など二つの団体が合意をした。「市民の切実な声を聞いて真剣に向き合っていない」と市を批判し、あらためて制度廃止を求めた。

（竹田香子）

市役所で発見したのは川崎公費助成の元患者や患者らの「川崎公費助成者と家族の会」のほか、医療関係者らによる「川崎市社会保険医療協議会」、「羽田増子」による市民実行ルートに反対する「川崎区民の会」。

家族の会は今年一月、両制度の継続を求める請願と九千六百四十筆の署名を市

### 3団体会見 市役所前で16日訴え

「市のフレイルキー施策との公平性」について、家族の会の大場泰太郎事務局長（左）は、現行の制度廃止に

### 市長は開会の市議会で言及せず

川崎市議会定例会が十三日、開会し、市は「成人ぜん息患者医療費助成制度」と「小児ぜん息患者医療費支給事業」を来年度三月末に廃止する案が来や一般会計補正予算案などの二十三件の議案を提出した。いずれも市議の石田康博氏（自由）、河野孝正氏（公明）を提案委員に選出する議案は、全会一致で可決された。

この日の傍聴席で福田紀彦市長は約二十五分間、陳述した。市議会開会記者会見も特別市制度の廃止に向けた取組について述べた。一方で成人ぜん息患者への医療費助成廃止には言及せず、石田一城健康福祉部長と河野孝正氏とも発言がなかった。福田市長は市議会開会に先立って開かれた定例会の定例会見で、ぜん息患者への医療費助成制度の廃止について「公平性、公正性の観点から丁寧な説明をさせていただいた」と述べていた。

会期は七月六日までの二十五日間、五本選選出による代表選開は六月二十一、二十二日の四日。

（北條香子）

「命を失った」と訴え、市役所前で市民団体が連日、制度廃止を訴え、大場さんは「福田紀彦市長による市民主義の破壊と自治権、人格権を守る取組みだ」と参加を呼びかけた。